

授業概要

歴史を学ぶ醍醐味は、原典にあたって史実を検証してゆくことにこそ求められる。この授業ではその基礎を習得する。資料の記述からじかに史実を読み取ることを学ぶので、年号・人名・用語などをわけもわからずに詰め込むいわゆる暗記物の日本史とは全く異なり、自ら日本史を研究する、その第一歩となる。

なお「古文書学」との違いは、この科目は活字化されたものを読み、「古文書学」は手書きの現物（写真）を読む、という点である。

授業計画

学科の専門科目であるばかりでなく、教職課程のうち、中学社会・高校地歴の「教科に関する科目」に選択科目として充当されていることを踏まえて、国家形成期から鎌倉幕府の滅亡まで、幅広い関心をもって題材をとりあげる。毎回、それぞれのトピックについて語る資料を3～4点とりあげて読解し、そこからどのような歴史的事象が読み取れるのかということを検討する。なお、各回末尾のpp.数字は教科書の該当ページ。

第 1 回	ガイダンス（参考書・辞典類の話）
第 2 回	予備知識を講義（年号、旧国名、歴史的かなづかいなど）
第 3 回	小国の分立、邪馬台国 pp.2～6
第 4 回	ヤマト政権と大陸情勢、地方支配の進展 pp.6～11
第 5 回	推古朝の内政と外交、仏教の伝来と興隆 pp.12～18
第 6 回	大化改新、律令制度とその実態 pp.19～31
第 7 回	三世一身法と墾田永年私財法、国家仏教の展開 pp.37～42
第 8 回	平安遷都、摂関政治と藤原氏の繁栄 pp.47～54
第 9 回	律令制的支配の変質、荘園の発展 pp.55～65
第 10 回	武士の発展、国風文化と浄土教 pp.65～76
第 11 回	院政と平氏政権、鎌倉幕府の成立 pp.78～84
第 12 回	守護・地頭の設置、承久の乱 pp.85～91
第 13 回	御成敗式目の制定、武士の土地支配 pp.92～99
第 14 回	文永・弘安の役（モンゴル襲来）、農民の成長 pp.99～104
第 15 回	鎌倉幕府の衰退、鎌倉新仏教 pp.105～112
第 16 回	試験を実施（定期試験期間中に筆記試験）

到達目標

高校日本史の教科書・参考書に登場するおもな資料について、一度は読んだことがあると胸を張って言えるようになること。さらにできれば、同レベルの未知の資料を自力で読解できるようになること。

履修上の注意

- * 基礎的な日本史の知識が必要。高校の教科書程度でよいから、復習しておくこと。
- * 資料はすべて古文であるから、少なくとも古文に対して嫌悪感をもたないでほしい。
- * 遅刻・欠席・途中退出・私語などは厳に慎むこと。これは常識かつ礼儀である。

予習・復習

【予習】適宜指名して、原文を声に出して読む、意味や解釈を答えるなど、語学に近い授業形態にするので、必ず目を通しておく。

【復習】もう一度、テキストを読み返し、ノートを整理する。

評価方法

期末に実施する筆記試験（60分、100点満点）によって評価する。その内容は、資料本文の読解、用語の説明など。高校国語（古典）の出題形式と似たものとなる。

配点比率：学期末試験 100%

テキスト

教科書（必須）：『詳説 日本史史料集』 笹山晴生・五味文彦ほか編
（山川出版社、2007年、ISBN978-4-634-02022-1）

参考書（任意）：漢和・古語・日本史などの辞典類。初回の授業で紹介する。